塩の歴史

八幡昭海

塩は明治三八年専売制となった。昭知三二年から三三年に日本塩業研究会が専売局の役人で後に武蔵野美術会が専売局の役人で後に武蔵野美術大学の教授になった、「加茂 詮」氏をか、一般には出版されず広く読まれたが、一般には出版されず広く読まれたが、一般には出版されず広く読まれたが、一般には出版されず広く読まれたが、一般には出版されず広くで後に武蔵野美術大系を作り一九八五年現在一七巻の方ち一四巻発行されている。

多く残されている。

エネルギーになる。そして神になるが、ても大切なものではない。米、酒、砂糖はなは大切なものであるが、エネルギー塩は人間にとって、又、動物にとっ

た。三〇〇〇年の歴史があり、土器が島の海岸で、土器で煮詰めて塩を作っ専売になる昔、東北沿岸、青森―福

塩は神として祀られていない。

藻塩焼くという言葉があるが…

釜は粘土と貝殻を粉にしたものを練を作り、それを煮つめて塩を作る。土入浜式から揚汲式へ海水から鹹水

り合わせで作ったもの。鉄の技術で鉄金が作られるようになる。鉄は中国地は「マンガン」を含み堅く、石の加工に使われた。奈良の巨大花崗岩の造形に使われた。奈良の巨大花崗岩の造形物、酒船石とか。

人々。戦国の城作りの穴太衆もその流木地師の発生も滋賀の鉄を持った

れか。

至る。その流れが奈良から鎌倉寺って来た。その流れが奈良から鎌倉をれとは別に、渡来人が鉄の技術を

鉄はサビが出るので、その塩は茶色

売る人が来るようになった。世来ぬので片麻岩を薄く割って、それに塩を作る人と、薪で塩を作る人と分業化が進んだ。東北の産地にも瀬戸内の塩を作る人と、新で塩を作る人と分業化が出来た。水料の薪を造んだ。東北の産地にも瀬戸内の花崗岩は薄くであった。一方瀬戸内の花崗岩は薄く

馬より牛の方が有益。途中の草を食べ塩を運ぶのに、牛や馬を使ったが、

って寝るのに馬は立っているとか。牛て、道路の保全にも役立つ。牛は夜座

の方が良かったという。

塩の道の話がある

豆腐を作るのに苦汁の多い塩の方

が貴重だったという。

塩の道の話の中に野獣対策の話が

したという。夜間火を燃やして野獣対ある。便は一カ所にためず流すように

策をしたという。

日本の人の話

原始時代から一貫して人口増加し

ている。

移民はあったが、武力を持ってこなか異民族の侵略を受けなかったこと。

った。

武士と農民の分離で、戦争は武士が

し、農作物とかは農民が作った。戦国

時代も農作物はきちんと作られて、一

般の人の生活を支えた。ゲリラ戦はし

なかった。平家の落人達はそれなりの

生活をして過ごせた。

高温多湿で植物が繁茂した。農作物

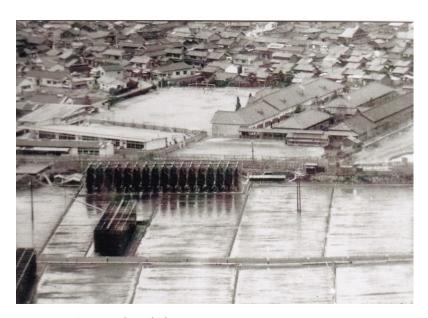
がよく取れた。その中で外来種を上手

に取り入れた。豆、トウモロコシ、サ

ツマイモが早く全国に広まって食料

われた。 宗教の争いも他の国のようでない。の自給を支えた。

激減しており、安定するのは明代と言中国では王朝の変わるたびに人口が



昭和 31 年頃の流下式塩田



昭和 25 年頃の入浜式塩田